

Gohohann News  
だごぼはん  
より

# 修正会

一月一日午前六時より

初老や還暦の方々が団体参拝されますので修正会の始まる時間に変更となる場合もございます  
年始は一日午前五時より二日午後四時まで受付します。本堂に誰もいなかったら、お声がけください。  
月参りは一日より三日まで休ませていただきます、四日より再開します

## 子ども初参り

お正月にお参りいただいたお子さんに、小学生以下、先着15名様におみやげにお菓子を用意しています。  
お子さん、お孫さんと一緒に参りください。



## 初参り・初詣は ご縁の深いところで ゆたしましょう

常入寺は喪中など関係なくどなたでもいつでもお参りできます。  
ご本尊の阿弥陀如来は人を選ぶことはありません。  
どうぞどなたでもお参りください

今月のことば

ええちやいますか、逃げても。どうにもならんことつてありますねん  
福来スズ子 (NHK朝の連続テレビ小説「ブギウギ」より)

## 二〇二四年 年期(忌)表

|             |              |              |                |              |                |              |              |             |             |             |
|-------------|--------------|--------------|----------------|--------------|----------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 百<br>回<br>期 | 五十<br>回<br>期 | 卅三<br>回<br>期 | (廿七<br>回<br>期) | 廿五<br>回<br>期 | (廿三<br>回<br>期) | 十七<br>回<br>期 | 十三<br>回<br>期 | 七<br>回<br>期 | 三<br>回<br>期 | 一<br>周<br>期 |
| 大正十四年       | 昭和五十年        | 平成四年         | 平成十年           | 平成十二年        | 平成十四年          | 平成二十年        | 平成二十四年       | 平成三十年       | 令和四年        | 令和五年        |
| 一九二五年命終     | 一九七五年命終      | 一九九二年命終      | 一九九八年命終        | 二〇〇〇年命終      | 二〇〇二年命終        | 二〇〇八年命終      | 二〇一二年命終      | 二〇一八年命終     | 二〇二二年命終     | 二〇二三年命終     |



# 12月8日はお釈迦さまが お悟りを開かれた日です

お釈迦様は、29歳の時に  
約束されていた国王の座や  
妻子を捨てて出家をされま  
した。その後6年もの間、  
厳しい苦行を続けられまし  
たが、苦行をすることでは  
真理を見いだせないとお氣  
づきになられ苦行をするこ  
とをおやめになり、近くの  
村の人より施された乳粥を  
食べ、苦行で疲れ切った身  
体を癒されました。その後  
近くにあった菩提樹という  
木の下で瞑想をはじめら  
れ、そして12月8日の早  
朝、暁の明星の輝きととも  
に、お釈迦様はついに悟  
りをお開きになられたの  
です。

出遊の話というのは以下の  
ものです。

今から約2500年前の  
インドにお生まれになられ  
たお釈迦様はお母様と産後  
まもなく死別されたという  
ことがあってかいろんな事  
に敏感になりよく物思いに  
ふけられていたそうです。  
そのことを心配されてか父  
である王様は美味しい食べ  
物毎日与えられたり、楽し  
いイベントを催されたりし  
てあまり物思いにふけない  
ように心がけられ育てら  
れました。ある時、お城の  
外の暮らしもどんなものか  
見てみたいと思ったお釈迦  
様は、家来を連れて、お城  
の東西南北4つの門から出  
かけることにしました。東  
の城門を出られたお釈迦様  
は、道に、齒がおり腰はま  
がり杖にたよって歩く老人  
の姿をご覧になられまし  
た。その枯れ木のような老  
人の姿を見て、人間、誰し  
もがやがて必ず、あのよう  
に老いていかねばならない  
と、老いの苦しみを痛感さ  
れたのです。またある日、  
南門を出たとき、病人を見  
られ、人は病むという病苦  
の現実を深く実感されまし  
た。そして西門を出られた  
ときに、葬式の行列を見ら  
れました。先ほどまで元気  
だった人が、青白くなつて、  
もう動かなくなる。そし  
て、焼かれてひとつまみの  
白骨になつてしまう。人は  
必ず死んでいかねばならな  
い。やがて死ぬのになぜ生  
きるのだろうか。人間は必  
ず死んでいくという、死苦  
の現実をまざまざと知られ  
たのです。最後に北門を出  
られたとき、出家した僧侶  
を見て、人間は限りあるい  
のちを、自分の欲を満たす  
ために生きるのではなく、  
老いや病や死を超えたなに  
か普遍的な真理を求めた  
めに生きているのではない  
だろうか。私も、老いても  
病んでも、そしていざ死ぬ  
となつても崩れない本当の  
幸せになりたい、と、真実

の幸福を求める気持ちには日  
に日に強くなつていかれた  
のです。これが四門出遊の  
話です。

お釈迦様は老・病・死、  
そして生という人間の避け  
ることのできない苦を見抜  
かれ、その苦から解放され  
ることを願ひ出家されたの  
です。仏教徒と名乗ってい  
る人生を苦であると認識し  
て生活しているのでしょうか。  
思えという意味ではな  
いですが、一度考えてみる  
必要があると思うのです。



【あとがき】◆「本年も後残す  
ところ〇〇日です」ね」とい  
うようなことがよくテレビで語  
られるような時節になりました  
たね。お正月を一年の節目と  
考える方は多いことでしょう。  
昔は千歳をいわゆる数え年で  
あらわし、みんな同時に正月  
月に年齢が増えることになつ  
ていましたからそういうこと  
があるのかも知れませんが、節  
目を迎える未来だけ想像したり  
願うのではなく、やはり過去  
を振り返ってそれを元に来た  
を想像することが大切なので  
はないかと思つています。わ  
たしの先輩が「忘年会ではな  
く憶年会をすべきだ」と言つ  
ていたことを思い出します。  
♠そういえばここ最近争い事  
が続いていますね。ロシアと  
ウクライナ、そして最近では  
イスラエルという国とハマス  
という戦闘集団との戦い。わ  
たしはどちらかが負けるとい  
う思いは少なく、とにかく早  
く争いが終わらないかなと  
思います。なんと来年には  
どちらも終結しないかと願  
うばかりです。そのためにみ  
なでどうしたらよいのか、わ  
たしはそのために何ができ  
るかと考えて歩み出すことが大  
事かなと思つています。

発行 真宗大谷派 常入寺

電話 930-0161 富山市東老田787  
住職携帯 (076) 436-0816  
発行責任 青井 和成  
090-3764-3983



LINEはこちらから↓  
お参りの変更  
法事の相談  
その他  
こちらからでもできます

